

平成24年度

教養ゼミ（初年次教育科目）

実施状況報告書



福山大学

FUKUYAMA UNIVERSITY

巻 頭 言

福 山 大 学 大 学 教 育 セ ン タ ー
セ ン タ ー 長 松 浦 史 登

大学の一年次は、学生個々人が自己の将来に着眼し、高校までの「学び」のあり方を自らの力で捉え直し、受動的・他律的な「学び」から、自主的、自律的な「学び」へと転換させていかなければならない時期です。

福山大学ではこの「学び」のターニングポイントとして「教養ゼミ」を配置し、高校から大学へのスムーズな接続を支援する「初年次教育」を推進して、一定の成果を上げてきました。

しかしながら近年、多様な個性や能力を有する学生が増加し始め、「叩けよ、さらば開かれん！」と鷹揚に構えていただけではダメであり、「叩き方の指導」や「叩く力の育成」に踏み出す必要性を多くの教職員が感じ始めました。教員個々の裁量に委ねられていた「教養ゼミ」の見直しが不可欠の課題となり、初年次教育の改善とそのため新たなシステム作りの取組みが始まりました。学生個々人を、学びたいと本気で望む地平に誘導し、ゴールをリアルに意識させ、自己を牽引していくためのモチーフを確実なものにさせなければならない、重要なのは授業へのどのようなアプローチが自己の知的好奇心を広め・深めることになるのかを理解させ、さらにそのための努力に踏み出すように仕向けることである、多くの教員はこのように考えました。

同時に学修は一人で成立するものではないが故に、「学びの変革」を有効にするには、社会性の育成はもとより、自己とは異質な地域性と歴史性に支えられた学友との関係を発展的に形成できる能力を向上させ、いわゆる「協働型学修」に向かわせなければなりません。

以上のような視点に立ち、平成21年度から全学で「初年次教育」としての「教養ゼミ」について全教員が共通の目的意識を持って実施することにしました。教養ゼミで目指す成果として次の5点を挙げています。

- ① 学生と教員の緊密なコミュニケーションを図り大学教育へのスムーズな移行、学習意欲の向上。
- ② 学生同士のコミュニケーションの充実。
- ③ 学習スキル(ノートの取り方、問題検索の手法、プレゼンテーションの基礎等)に関する導入教育。
- ④ 大学祭参加などの実体験を通じた協調性と自主性の涵養。
- ⑤ 挨拶、マナー、礼儀等、社会性の醸成。

このようにして新たな出発をした本学の初年次教育は、今年で5年目を迎えました。

本書は、平成24年度の実施状況報告集です。

教員各位には、今一度この報告集をご覧いただき、本学の初年次教育を、本学教育に賭ける学生が学びの意義とプロセスについて想像力の射程を広げ、実践的なプライオリティーを明確にし、夢実現に向かって着実に取り組む姿勢の育成に有効に寄与させるべく、この報告集を基に各部署で議論を深めていただきたいと願います。

目 次

.....

経済学部 1

.....

人間文化学部 人間文化学科 3

.....

人間文化学部 心理学科 6

.....

人間文化学部 メディア情報文化学科 7

.....

工学部 電子・ロボット工学科 8

.....

工学部 建築・建設学科 9

.....

工学部 情報工学科 10

.....

工学部 機械システム工学科 11

.....

生命工学部 生物工学科 19

.....

生命工学部 生命栄養科学科 22

.....

生命工学部 海洋生物科学科 23

.....

薬学部 25

.....

経済学部

■ 担当者氏名

(代表) 平田宏二

(担当) 鶴崎健一, 相原正道 岡谷良二, 塚原一郎, 日野恵美子, 古市雄一郎, 三川 敦, 吉田卓史

■ はじめに

経済学部における「教養ゼミ」は、大学教育の入り口となる最重要科目の一つと考え、平成22年度まで各教員がそれぞれの方針を持って実施してきた。実施内容・方法について、教務委員が一定の指針を示したものの、うまく運営できていたゼミと、出来ていないゼミがあり学生に戸惑いが生じるなど、必ずしも予定通りの成果が得られなかった。これらを改善すべく平成23年度からは学習課題や評価を統一することにした。

平成24年度では前年度の実施内容をふまえつつ、高校から大学での学びをスムーズに行うための視点でSGD（スモール・グループ・ディスカッション）を積極的に取り入れた。

■ 実施内容

平成24年度の実施内容は、次のとおりである。

区 分	テーマ
第1回	大学生活・授業の受け方
第2回	図書館を楽しく、有効に利用しよう
第3回	討論1 議論への参加：アイスブレイク
第4回	討論2 大学生活で大切なこと：抽出・討論・発表
第5回	討論3 経済学部で学ぶこと：抽出・討論・発表
第6回	討論4 経済学部で学ぶこと：メンバーを替えて
第7回	後期を始めるにあたって
第8回	読み方・まとめ方1 まず書く：第1課題の要約
第9回	読み方・まとめ方2 要約になっているか・第2課題の要約
第10回	読み方・まとめ方3 要約になっているか・みんなで検討
第11回	読み方・まとめ方4 要約になっているか・意見の統一・発表
第12回	学科・コースの選択
第13回	第1回～第5回教養講座
第14回	同上
第15回	同上

■ 教養ゼミの成果等

はじめに「大学生活」をテーマに、学生参加の形式で学習を進めた。授業の受け方や履修の仕方なども高校とは異なり、円滑な学生生活が送れるよう重要な事項について学習した。図書館については、教養ゼミの中で図書を利用した学習を進めており、また今後4年間学生たちが学習・研究する上で絶対に欠かせないものである。利用方法・注意点などを学生に理解させ、図書館を大いに活用するための素地を作ることができた。さらに大学生であるこの時期に最も重要なことの一つは、何とんでも文章理解である。このため読み方・まとめ方として文章理解・文章作成に力を入れた。教材を使って、文章の要約を作らせ、その要約を学生にSGDを利用して評価させた。これにより、学生相互の関係を深めるとともに、受け身で終わりがちな大学生活を能動的なものに変える効果があったと考えている。

さらに、今日の学生たちに求められるコミュニケーション能力や論理的な思考を育成するための手がかりとなるように学生主体の討論をさせた。具体的には、討論の実践、議論への参加、メンバーを入れ替えての討論、結果発表、評価などを行った。

今回、討論などを加えたことで実習的な側面が強くなったので、理由なき欠席は認めないという厳しい対応を取った。学生へは事前に連絡しており、さらに欠席者への補習も行なったが、無断欠席が理由で単位を落とす学生が発生した。

ほとんどの学生が、教養ゼミの後半には主体的に議論に参加できるようになったと感じられた。また学生間同士だけでなく学生と教員との関係も高まり、全体として導入教育の狙いはある程度達成できたといえる。課題としては、受け身の学生を如何に個々に応じた方法で参加させるよう対応の工夫が必要と思われる。

■ 今後の対応

学生には、何ごとにも消極的な学生、仲間との人間関係ができない学生、学力の水準など様々である。上記授業を進めるにあたっては、個人の特質にも配慮しながら、課題と評価をさらに明らかにして、PDCA サイクルをとおしてゼミの質的向上を図っていく。

人間文化学部 人間文化学科

■ 担当者氏名

青木美保

■ 教育目標および授業のねらい

学問の基礎とともに、実学的な能力や国際的な見識、創造力豊かな人間性を備えた学生の育成を目標とする学科の人材育成像に則り、教養ゼミでは、受講生たちに教員の専門等に関連した様々なテーマについて研究・討論させ、的確な判断力・行動力の向上を図ること、および、少人数での授業体制の中で、専門の内容を通して、教師と学生、学生相互の信頼関係の構築を目指している。

■ 前期実施内容

学生・教員を2グループ(教員4人づつ、学生20人程度)に分け、それぞれのグループで教員4人が各3回程度担当してオムニバスで授業を展開する。

その最初と最後の授業は、各グループの教員全員が集まり、授業全体の目標の共有や成果についての検討を行うて、授業の目標達成を徹底させている。

授業の学習成果は、「幅広い教養を修得するための基礎力(読む力・書く力)を身につけること、自ら発する問題意識とそれを解決する創造的な思考力を身につけること」である。

授業の概要は、シラバスに記す通りであるが、2グループで共通に

- 1回 教養ゼミとは(全教員)
- 2回～4回 大学での学びについての導入
- 4回～14回 各教員の専門を通しての導入ゼミ(各教員)
- 15回 充実した大学生生活とは(全教員)

学生の興味・関心による主体的な問題意識の開発、それについての文献調査などの問題追究の過程の体験、調査結果をまとめる(書く)こと、それを発表すること、他者の発表を聞いてコメントすること、など2年生以降の授業に関わるプレ体験を主な内容とする。

■ 前期教養ゼミの成果

授業の方法について学科内での議論があり、今年度の達成度について独自のアンケートを実施した(添付、回答率76% 22人)。その結果、先生との人間関係については、よくできた、まあまあできたが合わせて14人、仲間との人間関係は、よくできた、まあまあできたが合わせて19人、大学での勉学に意欲がわいたかについて、わいたが15人、教養ゼミの授業で何らかの力が身に付いたと答えた者は17人、どんな能力かを聞いたところ、発表力が6人、聞く力が7人、読む力1人、コミュニケーション力1人という結果であった。

自由記述においては、「みんなの価値観が少しわかった。」「友だち作りのきっかけになった。」「全員で自分の夢や趣味などを語り合えるので、自分のことを知ってもらえたり、自分の夢に自信がもてるようになった。」など、仲間との人間関係ができたこと、「先生が親しみを持って生徒と接してくれて、生徒からいかに優しく意見を引き出すかを大事にしているように感じられ、非常に楽しく授業が進められた。」「みんなの前で意見を言うのは死ぬほど緊張したけれど、良い練習になった。」など、授業の楽しさを味わったことが挙げられた。

一方、「内気な子にはハードルが高いかもしれない。(工夫が必要)」、「一人の先生にもっと意見やこれまでの調べた事の内容を聞いてみたい。」「一人の先生に数人の学生が集まって授業をする方が良い。」「オムニバスにすると、いろいろな話を聞くことができいいが、いまいち何を伝えたいかわかりにくいときがある。」といった現在の授業形態について、否定的な意見も聞かれた。

この学年は、1年の間に3名が退学するという異常な事態となり、これらの意見との相関が推測される。数年来、現在のオムニバス形式の授業について検討してきたが、教養ゼミのあり方について新しい方法の実施に向けて動き出したい。この授業の意図、学習成果を明確化し、4年間の教育システムの中に組み込む必要がある。ただ、授業の楽しさや仲間との人間関係などを報告する者もあり、初年次教育としての基本的な成果は上げたと言える。

■ 問題点、改善策、対応策

アンケートで、教員との関係が出来ない者7名、仲間との人間関係が出来ない者1名、勉学の意欲がわかなかった者6名となっており、教員との関係、勉学の意欲がわかない者が昨年度より増えていることは気になることである。授業形態の検討が必須である。

「教養ゼミ」の授業アンケート2012

人間文化学科教育システム導入委員会

人間文化学科では、演習授業の内容を検討しています。2012年前期の教養ゼミの授業について、下記の質問に答えて下さい。(22名解答)

1. 先生との人間関係はできましたか。
①よくできた 1
②まあまあできた 13
③あまりできていない 7
④全くできない 0
2. 1で「できた」と答えた人は、どのようなことができるようになりましたか。
具体的にこたえて下さい。
 - ・いい話しを聞いた。
 - ・先生と仲良くなった。先生と積極的に話せるようになった。挨拶できるようになった。
 - ・先生の性格を把握できた。先生の人となりがわかっておもしろかった。
 - ・先生に気軽に質問できるようになったなど
3. 1で「できない」と答えた人は、どのようなことが難しかったですか。
具体的にこたえて下さい。
 - ・一人の先生とのコミュニケーションの時間が短かった。
 - ・人間関係は築けたような雰囲気があるが、確としたものが思いあたらない。
 - ・教養ゼミではコミュニケーションをとったが、それ以外の場では関わらない。
 - ・短期間で先生が替わるので、人見知りの自分には難しかった。
 - ・わからなかったときにどうしたらいいか助言を請えなかった。
 - ・こちらがあまり発言できなかったため良好な関係を築くことができなかった。先生自体は親しみやすく接してくれて楽しかったです。
4. 仲間との人間関係はできましたか。
①よくできた 1
②まあまあできた 18
③あまりできていない 1
④全くできない 0
5. 4で「できた」と答えた人は、どのようなことができるようになりましたか。
具体的にこたえて下さい。
 - ・人の意見に対して話しをすることができるようになった。自分から意見を言えるようになった。
 - ・友だちの話も聞き、自分から話せるようになった。
 - ・O君と仲良くなれた。
 - ・話したことの無い人と話せるようになった。
 - ・無言の中の空気の読み合い
 - ・初めの頃同級生、特に男子に話しかけづらかったが、会を重ねる内に慣れてきた。
 - ・グループワークで意見交換することで、自分の考えを言うことができたし、相手の考えも知ることができて勉強になった。コミュニケーションが少しだけ付いた気がする。
 - ・もっと多くの人と関わりたかった。
 - ・意見を言い合う機会が何度かあったので、築くことができた。
 - ・自分の趣味や好きなことの話ができるようになった。
 - ・楽しい話しができた。
 - ・友だち以外の人たちと話し合いができるようになった。
 - ・積極的に話せるようになった。など
6. 4で「できない」と答えた人は、どのようなことが難しかったですか。
具体的にこたえて下さい。
 - ・教養ゼミではコミュニケーションをとったが、それ以外の場では関わらない。

7. 教養ゼミを受けて、大学での勉学に意欲がわきましたか。
- | | |
|----------|----|
| ①強くわいた | 3 |
| ②まあまあわいた | 12 |
| ③あまりわかない | 6 |
| ④全くわかない | 0 |
8. 教養ゼミの授業で、大学内でのマナー(あいさつ、礼儀等)が身に付きましたか。
- | | |
|----------|----|
| ①よく身に付いた | 10 |
| ②まあまあ付いた | 18 |
| ③あまり付かない | 8 |
| ④全くつかない | 2 |
9. 教養ゼミの授業で何らかの力が身に付きましたか。
- | | |
|------------|----|
| ①よくついた | 3 |
| ②まあまあついた | 14 |
| ③あまりついていない | 4 |
| ④全くついていない | 0 |
10. 9の質問に「身に付いた」と答えた人について聞きます。どのような力が身に付いたと感じていますか。
- | | |
|-------------|----|
| ①発表する力 | 6 |
| ②話を聞く力 | 7 |
| ③読む力 | 1 |
| ④コミュニケーション力 | 10 |
| ⑤その他() | |
| 0回答 | 4 |
11. 「教養ゼミ」について、自由に感想を述べて下さい。
- ・人と話すことが得意でなかったが、発表などをして人の意見などについて話し合ったりすることができるようになった。
 - ・楽しかった。とても楽しい授業でした。
 - ・みんなの価値観が少しわかった。
 - ・友だち作りのきっかけになった。
 - ・人の名前を覚えられた。
 - ・みんなの前で意見を言うのは死ぬほど緊張したけれど、良い練習になった。
 - ・別にこの体制でもいいが、内気な子にはハードルが高いかもしれない。(工夫が必要)
 - ・とても担任の先生が親しみを持って生徒と接してくれて、生徒からいかに優しく意見を引き出すかを大事にしているように感じられ、非常に楽しく授業が進められた。
 - ・毎週5時限で疲れた。
 - ・全員で自分の夢や趣味などを語り合えるので、自分のことを知ってもらえたり、自分の夢に自信がもてるようになった。
 - ・一人の先生に数人の学生が集まって授業をする方が良い。
 - ・一人の先生にもっと意見やこれまでの調べた事の内容を聞いてみたい。
 - ・質問をもっとできるような機会があればいいかもしれない。
 - ・いろいろな話しを聞いたり、考えたりして楽しかった。
 - ・オムニバスにすると、いろいろな話しを聞くことができているが、いまいち何を伝えたいかわかりにくいときがある。一人の人が2,3時間しか持たないから仕方がないが、この形式なら、もっと一人の人の時間を増やすべきだと思う。
 - ・今の形だと先生とのコミュニケーションがあまりとれないので、一人の先生に何人かがつく形がいい。
 - ・好きな先生を選んで15回ならいいと思う。だが、逆に最初に先生がみんなで自分はどんな授業をするかという説明がほしい。
 - ・あまり先生が替わることはしない方がいい。
 - ・自分が興味のある先生の授業を受けられるようにしたらいい。
 - ・人間関係を意識した授業だ今知りました。
 - ・もっと課外授業を増やしてほしい。
 - ・先生の話聞くだけでなく、自分の考えや意見を言える場をもっと増やしてほしい。先生の話しだけを聞く授業はおもしろくない。15回違う先生の方がいい。
 - ・フィールドワークがもっとあれば、この地方のことをもっと知る事ができた。
 - ・同じ事を何度も繰り返す授業は聞きにくい。
 - ・最初に大学の紹介ならいいが、3ヶ月くらいたって紹介されても、どうか。違う内容がよい。

人間文化学部 心理学科

■ 担当者氏名

(代表) 平 伸二 (1年担任・取りまとめ係)

■ ゼミ数とゼミの学生数

ゼミ数6, ゼミの学生数各8～10名

■ 前期実施内容

テーマ：ピア・サポート訓練

主な内容：ピア・サポートとは／自己紹介ゲーム, 自分自身について知ろう, 一方通行と双方向のコミュニケーション, 傾聴について／聴き方のロールプレイ, 話し合ってみよう／大切なものランキング, ストレスへの対処, まとめ

(その他に, 19号館案内, PC室案内, 図書館案内を実施)

■ 前期教養ゼミの成果等

サポートのためのスキル(傾聴, コミュニケーションなど)の訓練を行なった。学生同士の関係を築き, 互いに思いやりをもって支え合う雰囲気や学生同士の間に高めていくことができた。

また, 2年生35名全員が3週間(5月22日, 29日, 6月5日)に分散して, 6つの教養ゼミに2名ずつファシリテーターとして入り活動した。さらに, 2年生主催で教養ゼミ1コマを利用して, 体育館で1, 2年生合同のドッチボール大会を開催した。これらの2年生の関わりにより, ピア・サポート訓練の効果が著しく向上した。

■ 後期実施内容

教養ゼミは前期のみ開講だが, 学年担任だけでなく各ゼミ担当教員が後期も引き続き, 自分が担当した学生との連絡や面談, 履修上の指導を継続した。

■ 今後の課題

昨年の教養ゼミでピア・サポートを受けた2年生を, 1年生の教養ゼミのファシリテーターとして割り振ったが, 1年前の記憶をもとに進めているため, 2年生対象のオリエンテーションと入前にグループ単位で役割分担などを話す時間を今後は設けるようにした。

■ 特記事項

今年度も, 心理学科教員がまとめた冊子(ピア・サポート訓練のテキスト)を配付した。それらは新入生合宿オリエンテーションでも使用した。また, 平成25年度4月には, 心理学科認定のピア・サポート・トレーナー(PST)資格の有資格者が認定されるため, それら3, 4年生のPSTが教養ゼミにも関わり, 従来の1, 2年生の交流よりもさらに縦の関係の親密性が増加するようにしていく。

人間文化学部 メディア情報文化学科

■ 担当者氏名

(代表) 渡辺浩司

■ ゼミ数とゼミの学生数

ゼミ数：3（一年次担任；三宅(7)、渡辺(7)、阿部(7)）

■ 実施内容

シラバスから実施順の入れ替え、一部内容の変更はあったもののおおよそ予定通り実施された。

- ・ 1回
教務委員によるガイダンス
- ・ 2～5回
担任による少人数ゼミ
仲間作りのための『ピア・サポート』プログラム（心理学科作成の資料）を中心に実施
- ・ 6～11回
社会系、コミュニケーション系、情報系教員による全体講演会
- ・ 12～15回
学科主催行事であるCMコンテスト運営の準備・グループワーク、
映画（英語、英語字幕付き）鑑賞、カウンセラー藤居先生によるゼミ

■ 教養ゼミの成果等

ゼミのねらいである、受講者の将来の夢や目標を実現するために本学科で何を学ぶかを明確にする、メディアや情報に関する職業と学科の教育目標の関係が説明できるようになるという点はおおよそ達成できた。さらに少人数編成ゼミでの「仲間作り」や、学科全体でのグループワークによる協調性育成という点においても非常に有効であったと思われる。

■ 問題点、改善策、後期での対応策

後期は学科行事（講義科目外で実施している）や学科の専門科目である基礎演習などで引き続き初年次導入教育およびスキル教育を実施した。

工学部 電子・ロボット工学科

■ 担当者氏名

(代表：伍賀正典)

栗延俊太郎, 三宅雅保, 三谷康夫, 田中 聡, 香川直己, 沖 俊任, 伍賀正典

■ 実施内容

- 1 回目 (4/11) 概要説明、自己紹介
- 2 回目 (4/18) 授業の受け方、ノートの取り方
- 3 回目 (4/25) 資料整理の方法、図書館訪問
- 4～7 回目 (5/9、5/16、5/23、5/30) 小グループゼミ
- 8～15 回目 (6/6、6/13、6/20、6/27、7/4、7/6、7/11、7/18) ロボット競技会企画

■ 教養ゼミの成果等

- 初回では大学と学科についての説明の後、各自が自己紹介を行った。
- 2 回目では基礎的なスキルとしてのノートの取り方や授業の受け方について指導した。
- 3 回目では資料整理の方法を指導し、図書館に訪問し図書館職員による図書館利用の方法説明を行った。
- 合宿オリエンテーションで実施した数学テストの結果から7つの小グループを作った。
この小グループでゼミを行い数学基礎の学力底上げを行い、比較的学力のある学生には「ものづくり」の実習を行った。
- 8～15 回目まで、学生を2グループに分けてミニロボットコンテストの企画・運営・参加を行った。各グループで自発的に役割分担が行われ、レスコンシーズのロボットキット「レスキュークローラ」の作成、ブレインストーミングや線表を用いたスケジュール管理方法、パワーポイントでの企画の発表、競技会の実施と参加等を行い、グループでの協調作業を経験した。
- ロボット競技会企画の課題では旧三号館3階の計算機室を用い、ロボット競技は旧三号館ロビーで開催した。このグループでの作業は学生間の交流を深めるものであったと感じる。

■ 問題点、改善策、後期での対応策

ロボット競技会で使用するロボットキット「レスキュークローラ」を6月初めに発注したが、7月第二週まで手元に届かず、学生から作業時間が確保できないと指摘があった。また、ロボット競技会では学生に集めてもらった廃材を使用して競技フィールドなどを作成したが完成度はそれなりであった。次回からは教養ゼミの予算を使用し、整った成果物を作成することを検討したい。

■ 担当者氏名

宮地 功

■ 実施内容

24年度の初年次教育として、前期に「建築学概論」、後期に「教養ゼミ」を実施した。これらの授業を行う中で、建築に対する興味を引出し、勉学意欲を促すことを目的としている。「建築学概論」では、前半に「はじめて建築を学ぶ人のために」を教科書に、建築ガイダンスを行った。その後、建築コースの全教員が、それぞれの専門分野を中心とした建築の入門的な講義を行い、授業毎にレポートを作成、提出させた。

「教養ゼミ」では、少人数教育を目的として、各教員研究室へのゼミ配属を行い、ゼミナール形式で授業を行った。前半に「大学学びのことはじめ」を統一テキストとして、大学生生活全般について学び、後半では、各々のゼミごとにテーマを設定して、ゼミの学生同士が協力をして作業、討論を続けながら、調査研究、作品制作などを行った。また、最終日には全員参加してゼミごとの成果発表会を行った。これらを通して、情報収集能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力などの向上を図った。

■ 教養ゼミの評価

「建築学概論」は、提出されたレポートを、授業担当の各教員が「文字数」、「表現」、「熱心度」、「態度」の4項目について5段階評価を行い、それらを総和して最終評価を行った。それにより学生各個人の意欲、興味や学習態度、文章表現力などを把握することができた。

「教養ゼミ」は、最終日にゼミごとの成果発表会を行い、チームの共同作業として、調査研究の進め方、役割分担、成果のまとめ方、発表方法等を学んだ。

■ 今後の課題

前期の「建築学概論」の評価データを共有化し、後期以降、卒業までの授業や学生指導への生かし方が今後の課題であろう。

後期の「教養ゼミ」では、各ゼミ単位で実施したため、ゼミ担任が把握した担当学生のデータの共有化が課題であろう。

■ 担当者氏名

(代表) 宮崎光二

■ 目的

教員と学生の面接・対話の機会を増やし、少人数教育による教育の効果を学生個人の学園生活に反映させるとともに、調和的な全人格陶冶に資する。

■ 実施内容

15回のうち、10回はグループワークを行い、5回は教養講座を割り当てる。グループワークは学生を4～5人のグループに分け、テーマを与えて調査・レジメ作成・パワーポイント作成を行い、最後に発表する。各グループの発表の評価も学生達が行う。

1個のテーマに関して3週間（1回目は4週間）の時間を設け、

1週目 グループ分け、テーマの選択、役割分担、作業開始

2週目 調査、レジメ作成、パワーポイント作成

3週目 みんなの前で発表、評価

の内容を3回（4週・3週・3週の合計10週）行う。1回目は練習のため、2週目と同じことを3週目に行う。

教養ゼミ開講の趣旨を考慮し、

- ・学生同士のコミュニケーションの機会を多くとり、お互いの理解を深める
 - ・学生と教員の接する機会を多くとり、学生と教員の距離を縮める
 - ・コミュニケーション、ディスカッション、文書作成、構成作業、プレゼンテーション資料作成、発表などの基礎的能力の向上
- などの効果が期待できる。

■ 教養ゼミの成果等

少人数のグループにわかれてプレゼンテーションの準備作業を行うことによって、学生同士のコミュニケーションが活発になり、お互いをより深く理解できるようになったと思われる。また、教員と話をする機会を多くとることにより、1年生の担任以外の教員とも気軽に話せる雰囲気を作ることができた。また、プレゼンテーションの作成方法や、資料の作成などを一通り経験し、基礎的なプレゼンテーションスキルを修得させることができた。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

野西利次

■ ゼミ数とゼミの学生数

5名

■ 実施内容

- 第1回 基礎力養成ゼミの説明および自己紹介
- 第2回 大学での学習方法、レポート作成方法
- 第3回 SPIの問題を解く（数学分野）
- 第4回 SPIの問題を解く（理科分野）
- 第5回 SPIの問題を解く（国語分野）
- 第6回 一般常識問題を解く（時事・文化）
- 第7回 一般常識問題を解く（法律・経済）
- 第8回 一般常識問題を解く（歴史・地理）
- 第9回 一般常識問題を解く（数学）
- 第10回 一般常識問題を解く（理科）
- 第11回 教養講座①
- 第12回 教養講座②
- 第13回 教養講座③
- 第14回 教養講座④
- 第15回 教養講座⑤

■ 教養ゼミの成果等

SPI、一般常識問題の演習を行った。初めは解答に時間を要したが、演習を繰り返すうちに要領を掴み、解答時間が短くなり、正答率も高くなった。僅かであるが基礎学力を向上させることができたと思う。このゼミに参加することにより、早い時期からの就職活動の準備が重要だと、学生は感じたようである。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

国語分野を苦手とする学生が比較的多くいたようなので、次年度は国語問題を少し増やしてゼミを行いたい。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

鶴崎 展

■ ゼミ数とゼミの学生数

5名

■ 実施内容

- 第1回 ゼミ内容の説明、取り組み方の説明
- 第2回 EXCELの基本操作（計算式と表作成：力・圧力単位換算表）
- 第3回 EXCELの基本操作（計算結果のグラフ化：いろいろな関数の値とグラフ）
- 第4回 物理現象を解く（物体の放物線運動：スキージャンプの軌跡）
- 第5回 物理現象を解く（物体の放物線運動：スキージャンプの考察）
- 第6回 レポート作成（物体の放物線運動：スキージャンプ）
- 第7回 パワーポイント資料作成（物体の放物線運動：スキージャンプ）
- 第8回 パワーポイント資料作成、プレゼン（物体の放物線運動：スキージャンプ）
- 第9回 プレゼン（物体の放物線運動：スキージャンプ）
- 第10回 総括（EXCELによる、その他の数値計算法）
- 第11回～第15回 全学教養講座

■ 教養ゼミの成果等

学生達は設定された問題に対して、それを解くための方法を学び、自分自身で考えて結果を出すことが出来た。またその結果をまとめる方法や、プレゼンの「技能、態度」を、ある程度身につけることが出来た。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

学生間に能力差があることを前提とし、ゼミを運営した。すなわち、個々の学生が「何がどこまで出来るようになったか」を方針として、ゼミを進めた。各学生も自分自身の成長を感じることができたのではないかと考えている。今後は、「学ぶ姿勢（態度）」にも重点をおいて指導したい。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

布施守雄

■ ゼミ数とゼミの学生数

5名

■ 実施内容

- 1) 自己紹介の仕方 (テキスト^(*)使用) (※1) 大学 学びのことはじめ
- 2) ゼミの友達を知ろう (テキスト^(*)使用) 佐藤 智明 他 編
- 3) 先輩との懇談 (布施研究室の4年生と懇談)
- 4) 図書館の使い方 (図書館員から説明を受けた)
- 5) 伝える力を培う (テキスト^(*)使用) (※2) 伝える力
- 6) わかりやすく伝える (テキスト^(*)使用) 池上 彰 著
- 7) ~ 9)
自動車のコンポーネントの歴史を調べて、レポートに文書化する
- 10) 各自のレポートを発表して批評し合う
 - ・ 他に教養講座5回

■ 教養ゼミの成果等

- ・ 前半は大学生活に慣れるため茶話会的な形で進めて交流を図ったので、ゼミ仲間同士が比較的仲の良い友達となった。
- ・ 中盤にコミュニケーション力を養うために、テレビ等で人気の池上彰氏の著書を用いて話を進めたので、レポートの発表などにその効果があった。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

基本的には、今年のやり方を踏襲したい。

しかし、レポートにまとめるテーマについては、自動車に限らず広い分野を対象にすることも考える。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

真鍋圭司

■ ゼミ数とゼミの学生数

5名

■ 実施内容

1. はじめに
2. 自己紹介、大学生活など
3. 大学での学習方法、レポートの作成方法
4. いろいろな題材でグラフを考えよう
5. 関数について考える。変化率、微分
6. 微分の問題を解き、解き方を説明する
7. プレゼンテーションの基礎
8. 微分の公式を覚えよう
10. まとめ
11. 教養講座（1）
12. 教養講座（2）
13. 教養講座（3）
14. 教養講座（4）
15. 教養講座（5）

■ 教養ゼミの成果等

大学の基本的なことは十分説明できたので大学生活にスムーズに入れたと思う。図書館の見学も盛り込み、図書館のさまざまなことを説明していただいた。今年の配属生は数学得意な学生が多かった。そのため問題を解くのは簡単だったようである。そこで物理の基本的な問題も取り入れた。また問題解説を発表し質疑応答を行った。学生同士でコミュニケーションもとれ、緊張もせずに発表できた。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

今年度は数学の得意な学生が集まったので、来年は数学が苦手な学生を対象とした導入教育もめざしたい。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

坂口勝次

■ ゼミ数とゼミの学生数

5名

■ 実施内容

- 第1回 オリエンテーション（授業のねらいと進め方）
自己紹介（文章でまとめる、口頭で伝える）
- 第2回 キャンパスライフ（相談支援と課外活動について）
スタディスキルズ（受講の心得とノートの取り方）
- 第3回 探究テーマの設定と整理のポイント
- 第4回 情報収集（インターネット利用など）
- 第5回 情報分析
- 第6回 情報整理
- 第7回 プレゼンテーション技法，スライド構成立案
- 第8回 スライド制作（基本構成）
- 第9回 発表原稿の作成
- 第10回 プレゼンテーション（相互評価）
グループ・ディスカッション，まとめ

※上記のほか、教養講座（下記，年間5回）も評価対象に加えた。

- 第11回 教養講座（第1回，4月26日）：吉津宣英 講師
『この1日のいのち』
- 第12回 教養講座（第2回，6月12日）：竹原奈津 講師
『ヴァイオリンとピアノで奏でる音楽の魅力』
- 第13回 教養講座（第3回，6月28日）：上海戯劇学院 講師
京劇講演会『京劇に学ぶ中国の伝統文化』
- 第14回 教養講座（第4回，10月2日）：二十四世本因坊秀芳（石田芳夫 九段） 講師
『囲碁から学ぶ人間学 ～修業時代から名人・本因坊へ～』
- 第15回 教養講座（第5回，12月4日）：森下浩子 講師
『公衆衛生看護と在宅医療』

■ 教養ゼミの成果等

- (1) 探究テーマに関連する話題提供が，個人テーマの探究心向上や情報収集・分析・整理に役立てることができた。また，キャリアデザイン，就職実績などに関連づける説明を加えることで，就職など進路に対する視野も広げることができた。
- (2) 昨年度問題点となったプレゼンテーション原稿のまとまりがやや欠けていた点を考慮して，スライド作成時に，原稿の思案・工夫のための時間を拡大したことで，まとまりのあるプレゼンテーションになった。
- (3) プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が向上したことを実感する学生が多かった。

■ 問題点，改善策，次年度での対応策

探究テーマではものづくりに関することに絞ったが，教養ゼミの統一テーマを設定していなかったため，学生の関心事だけが中心となり，SGDでは教養ゼミ全体のまとめに問題点が残った。次年度は，教養ゼミ全体の統一テーマを設定し，それに基づいて学生各自の探究テーマを設定するように改善し，SGDの内容を深めていきたい。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

木村純壮

■ ゼミ数とゼミの学生数

5名

■ 実施内容

1. ガイダンス, 顔合せ, 挨拶, 自己紹介準備
2. 自己紹介, スピーチについて
3. 高校授業と大学授業の比較, 学習方法, 受講の心得, 授業の心構え, 授業の聞き方, ノートの取り方
4. 大学生活, 就職活動関係スケジュール, 機械技術者の資格, 大学生活の目標
5. 進路選択, 将来の希望・仕事・就職, 機械技術者の仕事・求人・就職先・資格
6. 就職活動と基礎力, 入社試験・採用試験, S P I 適性検査 (理科・物理関係) 演習
7. 時事問題, 課題調査・演習
8. 時事問題課題調査発表・質問
9. 高校生活と変わったところ, 将来計画について
10. 将来計画のプレゼンテーション・質問, 感想発表
11. 教養講座 (1)
12. 教養講座 (2)
13. 教養講座 (3)
14. 教養講座 (4)
15. 教養講座 (5)

■ 教養ゼミの成果等

初年次教育として, 大学生活への適応, 基礎力の育成を目標に, 柔軟な話題を取り扱った. どの話題も, 説明・問題提起, 考察, 整理, プレゼンテーション, 質疑のプロセスを経るようにして, 学生が自分で考えること, プレゼンテーションやディスカッションの機会が増えることを重視して実施した. 発表機会が増えることで, 学生相互の会話や交流も促進され, 交友が深まったと思われる. また, 充実した大学生活を過ごすこと, 将来のために準備を行うことなど有益な内容をテーマとして, 学生も, 積極的に, 関心を持って取り組んだ. 今後の意識向上に寄与できたと思われる.

■ 問題点, 改善策, 次年度での対応策

授業回数に教養講座を含めたため, 昨年度に比べ実施内容が少なくなってしまった. 専門的な機械技術者関係の話題を取り扱えれば良かった.

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

小林正明

■ ゼミ数とゼミの学生数

6名

■ 実施内容

“モノづくりを楽しもう！”というテーマで実際にモノづくりを行いながらレポートの作成方法、プレゼンテーション方法などを学習した。

- 1) オリエンテーションと自己紹介
- 2) モノづくりに必要なことは
- 3) 折り紙ヒコーキの製作（1）検討・製作
- 4) 折り紙ヒコーキの製作（2）発表・レポート作成
- 5) 紙トンボの製作（1）検討・製作
- 6) 紙トンボの製作（2）発表・レポート作成
- 7) ペーパーパラシュートの製作（1）検討・製作
- 8) ペーパーパラシュートの製作（2）発表・レポート作成
- 9) プレゼンテーションとグループディスカッション
- 10) まとめ
- 11) 第1回教養講座
- 12) 第2回教養講座
- 13) 第3回教養講座
- 14) 第4回教養講座
- 15) 第5回教養講座

■ 教養ゼミの成果等

初年度教育として、大学生活への適応と基礎力の育成を目標に取り組んだ。また、簡単なモノづくり教材を用いてモノづくりの大切さ、レポートの作成方法、プレゼンテーションの方法などを学習した。受講生はモノづくりの大切さやレポートの作成方法、プレゼンテーションの方法などを学習することができた。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

初年度教育として、大学生活への適応と基礎力の育成を目標に取り組んだ。また、簡単なモノづくり教材を用いてモノづくりの大切さ、レポートの作成方法、プレゼンテーションの方法などを学習した。受講生はモノづくりの大切さやレポートの作成方法、プレゼンテーションの方法などを学習することができた。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

中東 潤

■ ゼミ数とゼミの学生数

5名

■ 実施内容

- 【第1回】オリエンテーション、自己紹介の方法
- 【第2回】課外活動のすすめ
- 【第3回】資格の種類と取得方法、図書館の使いこなし方
- 【第4回】キャリアデザインについて
- 【第5回】リサーチの方法（テーマ：学生がだまされる危険について）
- 【第6回】プレゼンテーションの方法
- 【第7回】資料の作成、口頭発表準備
- 【第8回】プレゼンテーション（学生がだまされる危険について）
- 【第9回】プレゼンテーション用資料の作成（テーマ：スポーツと新素材）
- 【第10回】プレゼンテーション（スポーツと新素材）
- 【第11～15回】教養講座

■ 教養ゼミの成果等

第10回に教養ゼミを通じて得られたこと等を受講生に書いてもらった。

主な感想は以下の通りである。

- ・マナーについて学ぶことができた。
- ・人前で発表をすることの大変さを学べた。（緊張感を体験できて良かった）
- ・人に伝えやすい文章の作り方が学べた。
- ・プレゼンテーション用の図の作成方法がわかった。
- ・大学での授業の受け方やレポートの書き方がわかった。
- ・敬語の大切さを学んだ。

総括すると、学生（新入生）に大学での学び方やマナーについて知ってもらえたのではないかと考えている。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

プレゼンテーション用資料の作成時間が不足気味であったので、次年度はもう少し時間を与えたいと考えている。

生命工学部 生物工学科

■ 担当者氏名

原口博行

■ 生物工学科教育プログラムに置ける教養ゼミの位置付け

生物工学科では、学習意欲を高め、目標を設定し達成することを目的として、演習科目や実験科目を教育プログラムに多く取り入れている。本学科カリキュラムにおいて教養ゼミは、本学・本学科の教育の特徴の理解を深めさせ、一般教養を高めながらさらに生命科学に対する興味を喚起する科目として位置付けて開設している。さらに初年次教育に求められている大学生生活への円滑な導入、および大学での学び方、教員や友人との信頼関係の構築にも役立つ内容を実施している。コミュニケーション力を育成するためにプレゼンテーションやディスカッションなどを積極的に取り入れて実施している。

本学では教養ゼミを前期2単位の講義科目として15回実施しているが、本学科では演習科目として捉えて、通年30回実施している。実施回数のゆとりを活用して、随時他科目の補講にも利用することを可としている。

■ 実施内容

回	実施日	内 容
第1回	平成24年4月11日	【福山大学の理解・・・オリエンテーションの補足】 カリキュラム作成のための履修相談、教務委員・クラス担任等との個別指導。
第2回	平成24年4月18日	【福山大学の理解・・・本学の沿革と理念】 大学組織・大学というものは、これまでの高等学校や中学校とはその組織が大いに異なる。大学生活に関する解説。本学開学の経緯と今日までの沿革、本学科開設から現在に至るまでの変遷について説明し、本学学生としての誇りと自覚を促す。
第3回	平成24年4月25日	【福山大学の理解・・・教養ゼミ・ガイダンス】 教養とは何かについて説明し、カリキュラムの中での教養ゼミの目的について解説。 教養ゼミで取り上げたいテーマについて話し合う。
第4回	平成24年5月9日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1「憲法を考える」(読み物)を読んで討論 話題2「言語と国家・文化」(野球は棒球、蹴球は足球)(フリートーキング) 話題3「日本の祝日について起源や変遷」{連休明けのため}
第5回	平成24年5月10日	【第1回教養講座】 「この一日のいのち」(吉津宣英先生)
第6回	平成24年5月16日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1「英語の公用語化、是か非か」(読み物)を読んで討論 話題2「言語と国家・文化」(和製英語、和製中国語)(フリートーキング) 話題3「四字熟語と人生観」(フリートーキング)

第7回	平成24年5月23日	【将来について考える・・・ディスカッション】 話題1 企業が求める○○力（新聞記事より） 話題2 大学生の人気企業（新聞記事より）
第8回	平成24年5月30日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1 「地理・歴史、高校教育の困難」（読み物）を読んで討論 話題2 話題1 をフォローして、「こんな科目があればいいのに」（フリートーキング）
第9回	平成24年6月6日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1 「大学生の学び」（読み物）を読んで討論 話題2 「専門分野以外に、専門性のある程度につけたいことは」（アンケート） 話題3 「勉強カラオケ理論」（読み物）を読んで討論
第10回	平成24年6月13日	【福山大学の理解・・・生物工学科の1年】 これまでアップされてきた本学科のホームページを見て、本学科の1年間のおおそを理解する。 ホームページに関するアンケート調査。
第11回	平成24年6月20日	【第2回教養講座】 「ヴァイオリンとピアノで奏でる音楽の魅力」（竹原奈津先生） 【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1 「ハイブリッドなインテリジェンス」（読み物）を読んで討論 話題2 「知的ゲーム、サル・ウシ・ヒツジ・ライオン・ウマ」（フリートーキング）
第12回	平成24年6月26日	【第2回教養講座】 「ヴァイオリンとピアノで奏でる音楽の魅力」（竹原奈津先生）
第13回	平成24年6月27日	【福山大学の理解・・・福山大学の歌】 三蔵五訓を解説し、みんなで唱和。続いて福山大学の歌をCDで聞き、歌詞を解説。みんなで合唱。
第14回	平成24年6月28日	【第3回教養講座】 「京劇に学ぶ中国の文化」
第15回	平成24年7月4日	【福山大学の理解・・・教育システムについて】 本学の大学教育システムについての解説・活用術 【教養を広げる・・・教養講座】 前回までの教養講座について、感想などを話し合う。
第16回	平成24年7月11日	【補習時間】 「化学Ⅱ」の補習講義・演習
第17回	平成24年7月18日	【教養を広げる・・・新入生にすすめる50冊の本】 同冊子を配布し、ざっと目を通しながら読んでみようかと思う書籍があるか眺めてみる。また、担当者の紹介した書籍の内容を解説。 【福山大学の理解・・・前期試験について】 試験受験にあたっての注意事項・確認事項。単位認定について。
第18回	平成24年10月2日	【第4回教養講座】 「囲碁から学ぶ人間学」（第24世本因坊秀芳 石田芳夫先生）
第19回	平成24年10月3日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1 「夏休みに何をしたか」（フリートーキング） 話題2 「領土問題、妥協は禁物」（新聞論説）を読んで討論。
第20回	平成24年10月10日	【福山大学になじむ・・・みんなで大学祭】 大学祭学科企画について、話し合い。（上級学年の参加あり）
第21回	平成24年10月17日	【福山大学になじむ・・・みんなで大学祭】 大学祭会場設営。ポスター作り。
第22回	平成24年10月24日	【福山大学になじむ・・・みんなで大学祭】 大学祭でのアンケート調査の集計。大学祭の反省会。
第23回	平成24年10月31日	【補習時間】 「化学実験」の口頭試問

第 24 回	平成 24 年 11 月 6 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題 1 「面白さを創り出すのは自分である」(読み物) を読んで討論 話題 2 「天才と凡才の差が・・・」(読み物) を読んで討論
第 25 回	平成 24 年 11 月 14 日	【補習時間】 「化学実験」の実習試験
第 26 回	平成 24 年 11 月 21 日	【補習時間】 「生物観察実験」の追加実習
第 27 回	平成 24 年 11 月 28 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題 「米主食、変わるか？」(読み物) を読んで討論
第 28 回	平成 24 年 12 月 4 日	【第 5 回教養講座】 「公衆衛生看護と在宅医療」(森下浩子先生)
第 29 回	平成 24 年 12 月 5 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題 1 「少子高齢化、日本人の意識変化」(読み物) を読んで討論 話題 2 「気になる社会問題」についてアンケート
第 30 回	平成 24 年 12 月 12 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題 1 「今年の 10 大ニュース」(アンケート) 話題 2 「今年の僕の・わたしの重大ニュース」(フリートーキング)
第 31 回	平成 24 年 12 月 19 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題 1 「今年の漢字」(新聞報道より) 話題 2 「グローバル社会」(読み物) を読んで討論
第 32 回	平成 25 年 1 月 9 日	【学習意欲の喚起】 話題 1 「今年を表す漢字は？」 話題 2 今年のマニフェスト
第 33 回	平成 25 年 1 月 16 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題 「欧米型”伝える力”を磨く」(読み物) を読んで討論
第 34 回	平成 25 年 1 月 23 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題 「パスク・ヤポニカ」(読み物) を読んで討論
第 35 回	平成 25 年 1 月 30 日	【学習意欲の喚起】 話題 1 「寝かせる」(読み物) を読んで討論 話題 2 大学 1 年間どうであったか (フリートーキング)

■ 評価について

提出されたレポートを担当または教養ゼミ担当教員が点検・評価。態度(出席状況と学習姿勢)を総合的に評価した。その結果概ねの学生が 80 点以上の評価となった。レポート等提出物は学生に返却済み。

■ 次年度への課題

- (1) 一昨年より教養講座を教養ゼミの一環として実施するようになり、教養ゼミの中での位置付けをしっかりとさせる予定であったが、教養講座の内容をディスカッションの題材として取り上げるなど、一部試みたが、十分には活用しきれなかった。
- (2) 福山大学教育システムを周知徹底して、教養ゼミを含めた本学での学び方を全学生に理解を促す努力が必要。
- (3) 各回のゼミのテーマにより、受講生の食いつきに差がある。学生がとっかかりやすいポップな話題にするのか、従来の教養的センスを身につけてもらうきっかけとなる話題をうまく導入するのか、難しいところである。

生命工学部 生命栄養科学科

■ 担当者氏名

(代表) 井ノ内直良

■ ゼミ数とゼミの学生数

ゼミ数：7 ゼミの学生数：7～8名

■ 前期実施内容

全体ガイダンス3回、少人数判別ゼミナールを5回、野菜栽培実習を行った。ゼミナールは書く担当者の実施計画にしたがって行われた。各ゼミとも1回目は自己紹介、マナー教育にはじまり、図書館の見学と利用法の習得、25号館の美術鑑賞と美術作品の模写なども実施した。それ以降は各ゼミにて、実験、演習、テーマ討論、一般のコミュニケーションなど様々な内容で実施された。野菜栽培実習では、調理で使う食材作りと栽培の注意点について学んだ。野菜栽培の共同作業をすることにより、学生間のコミュニケーション能力や協調性を養った。

■ 前期教養ゼミの成果等

- ・少人数による判別教養ゼミナールでは、学生と教員、学生同士で親密なコミュニケーションをとることができた。
- ・学生各人の考え方や、大学での勉強の不安な点を具体的にゼミナールの担当教員が知ることができ、それらの情報をまた学科会議などで教員間で共有することができた。
- ・「〇〇と生命栄養科学」という教養ゼミナールを各教員が自分の専門分野について分かりやすく説明し、各教員がそれぞれ担当する専門科目がどのように本学科で重要であり、さらに社会出てからも役立つ学問であるかを講義することで勉学意欲の向上につながった。
- ・挨拶などのマナーが身についた。

■ 問題点、改善策、後期での対応策

問題点として、コミュニケーション、マナー、学生相談などが中心となり、学習スキルの作文、テーマ発表、テーマ討論などにあまり時間がとれなかった。そこで後期は大学祭の準備を通して、前期で不足気味の内容を充実させることとした。

■ 後期実施内容

全体ガイダンスを3回、少人数班別ゼミナールを5回、野菜栽培実習を行った。また、後期の開始から、三蔵祭の学科紹介のための班分けを行い、上級生との連絡も密にして、三蔵祭終了まで、毎週のように話し合い、準備などを通して、上級生との縦の繋がりも生まれた。

■ 後期教養ゼミの成果等

- ・少人数班別ゼミナールでは、学生と教員、学生同士でコミュニケーションをさらにとることができた。
- ・前期に引続き、学生各人の考え、大学での勉強の不安などについて知ることができた。
- ・テーマ学習では、後期になって学生生活に慣れてきたためか、自主的に質問する学生も増えてきた。
- ・三蔵祭の運営により、企画力、協調性、挨拶、先輩へのマナーなどが身についた。

■ 問題点、改善策、後期での対応策

後期では、班別ゼミナール、トマト栽培実習に加えて、大学祭の計画、準備、実施が加わったが、個人のスキルの上達が不十分な面の充分な解消には至らなかったため、来年度は、学生各人のコミュニケーション能力、マナーの向上と同時に、国語力、数学力などの基本的な学力の向上も目指したい。

生命工学部 海洋生物科学科

■ 担当者氏名

(代表) 三輪泰彦

■ ゼミ数とゼミの学生数

ゼミ数：12 ゼミの学生数：9-10名

■ 前期実施内容

- 1) 全体ガイダンス：教養ゼミの内容説明、履修、授業、試験等の補足説明
- 2) 自己紹介（自己紹介シートおよび自己紹介発表原稿の作成、）
- 3) 図書館の利用法
- 4) 個人面談-学生生活、欠席調査など
- 4) スポーツ大会（新入生歓迎ソフトボール大会）
- 5) 大学祭の展示企画-1 テーマおよび展示の原案作成-グループディスカッション
- 6) 大学祭の展示企画-2 テーマおよび展示の原案作成-グループディスカッション
- 7) 大学祭の展示企画- テーマの決定-全員でディスカッション
- 8) 大学祭の展示企画- 大学祭の物品リストの作成- テーマごとにディスカッション
- 9) 定期試験への心構え
- 10) 水族館見学事前学習
- 11) 水族館見学（宮島水族館）
- 12) 水族館見学レポートの作成

■ 後期実施内容

- 1) 個人面談（前期成績のチェックや学生生活など）
- 2) 大学祭の計画-工程表の作成
- 3) 大学祭の準備-1 ポスター、看板、展示物の作成等
- 4) 大学祭の準備-2 水槽のセットアップ、海洋生物の採集、金魚の飼育、展示物の作成等
- 5) 大学祭の準備-3 会場の設営、展示物の備え付け等
- 6) 大学祭- 来場者への対応
- 7) 大学祭- かたづけ
- 8) 個人面談-欠席調査など
- 9) 大学祭の反省会
- 10) 定期試験への心構え

■ 教養ゼミの成果等

- (1) 少人数体制で行ったので学生と教員、学生同士でコミュニケーションを十分にとることができた。
- (2) 学生生活や教務（履修方法、欠席調査、定期試験への対応など）についてサポートすることができた。
- (3) プロダクトとして大学祭の展示企画（3つのテーマ、展示内容、必要物品等）についてまとめることができた。テーマ：1）ちりめん MONSTER～あなたは見つけることができるか～・2）金魚すくい・3）Dr. Fish の足湯～心とともに足を洗おう～。
- (4) 大学祭を通じて学生同士の団結力を高めることができ、イベントに参加したことでやりがいを感じてもらった。
- (5) 大学祭の来場者への対応を通して、教員や学生以外の人とコミュニケーションをとる経験ができた。たとえば、ほかの人により良くわかってもらうためには、わかってもらうこと、伝えたいことを整理し、相手に示す資料をしっかりと準備することが必要であることを学ぶことができた。
- (6) 大学祭を十分にエンジョイしてもらった。
- (7) 学生一人1人に、自分が担当した展示企画の問題点、反省点、今後の改善点をそれぞれ、まとめてもらった。
- (8) 平成23年度の改善点の一部を今年度にフィードバックすることができた。
- (9) 今回はカリキュラムの変更により、リニューアルした宮島水族館のバックヤードを見学することができなかった。

■ 問題点、改善策、対応策

- (1) 少人数体制（9-10名）指導しているが、1グループあたり1人の教員が担当しているせいか、目の行き届かない学生も出てくる場合がある。
- (2) 教養ゼミが時間割の都合で5時限に開講しているが、1～4時限の授業を受けている学生にとっては疲れがでてきて、集中力を維持するのが難しい。
- (3) 2424 講義室のエアコンの状態が悪いため、学生からは「夏の時期の学習環境が悪い」という不満がでた。
- (4) 教養ゼミの時間割調整が難しい。本学科では月～金の午後から学生実験が組み込まれているため教員によっては一部スケジュール合わせができないことがある。また、因島キャンパス専任の教員は、因島から本学に移動するため、教員の負担が非常に大きい。
- (5) 周りの学生とうまく打ち解けることができない学生への対応が難しい。
- (6) 学生数が非常に多いので全体で展示企画について仕事を進めていくのが難しいと感じた。今年度もテーマごとに積極的に取り組む学生をリーダー、副リーダー、書記として数名選抜し、その運営に指導能力を発揮してもらった。
- (7) 大学祭は基本的に全員参加であるが、一部の学生は執行部の三蔵委員や各サークルに所属しており、執行部やサークル活動の仕事にそれぞれ専念してもらった。
- (8) 大学祭やスモールグループディスカッションにおいて積極的に参加できなかった学生がいたので、取り組むことができる環境づくり（目標をしっかりと理解してもらう、学生の意見や考えを出しやすい雰囲気をつくること、積極性を引き出す手法を考えることなど）を引き続き行っていきたい。
- (9) 昨年と同様に、学生からのアンケート調査を行い、改善点を次年度にフィードバックできるようにしたい。
- (10) 今年度は大学祭で3年生による3つの専門コースの展示とジョイントしたが、1年次と3年次の学生間の交流があまりみられなかった。今後は、コミュニケーションを通じて「学年の縦のつながり」を構築していきたい。
- (11) 学生が地域の活動（地域の祭りなど）に参加して、地域住民とのコミュニケーションをもつような企画を検討していきたい。
- (12) カリキュラムの変更により、リニューアルした宮島水族館のバックヤードを見学することができなかったため2年生の進路探求の時間に宮島水族館の見学を実施する予定である。

薬学部

■ 担当者氏名

(代表) 岡村信幸

(担当) 岡村信幸, 井上裕文, 田淵紀彦 (薬学入門担当)

宇野勝次, 道原明宏, 小嶋英二郎, 佐藤英治, 本屋敷敏雄 (クラス担任)

■ ゼミ数とゼミの学生数

新入生全員に対し、薬学入門Ⅰならびに教養講座において教養ゼミを実施した。

■ 実施内容

1 薬学入門Ⅰ (担当責任者: 岡村信幸)

毎週、クラス単位でスモールグループディスカッション (SGD) を行い、薬学入門担当教員 (3名) ならびにクラス担任 (5~6名) がチューターとして指導を行った。

※日程・方略は別紙参照

2 教養講座 (担当責任者: 宇野勝次)

教養講座 (5回) を受講後、レポートを毎回提出させ、クラス担任が指導を行った。

■ 教養ゼミの成果等

学生が主体となって能動的に学習・情報共有、さらに体験することによって『気づきの学習』を実践することで、学生の行動変容のためのきっかけ作りになる。上記の学習により、次の事項について向上ならびに醸成を得たと考える。

- ・ 学生-教員間ならびに学生同士のコミュニケーションの活性化
- ・ 薬学生としてのモチベーションの醸成
- ・ 情報の収集と処理ならびにプレゼンテーションなどの能力の向上
- ・ 能動学習のための動機づけ
- ・ 問題解決能力の向上
- ・ 挨拶、マナー等の社会性の涵養

■ 問題点, 改善策等

学生ならびに実施施設からのアンケート調査によって、毎年改善を行っている。

薬学入門前期 (平成24年度)													
4月			5月			6月			7月				
			1	2	3	1	2	3	1	2	3	4	5
			1	火		1	金		1	日			
		3	2	水		2	土		2	月			
3	火	入学式	3	木	憲法記念日	3	日		3	火		方略7A(体験学習) P1	
4	水		4	金	みどりの日	4	月		4	水		方略7A(体験学習) P2	
5	木	合宿オリエンテーション	5	土	こどもの日	5	火		5	木		方略7A(体験学習) P3	
6	金		6	日		6	水		6	金			
7	土		7	月		7	木		7	土			
8	日		8	火		8	金		8	日			
9	月		9	水		9	土		9	月		方略7B P1	
10	火		10	木		10	日		10	火		方略7B P2	
11	水		11	金		11	月		11	水		方略7B P3	
12	木		12	土	方略3 菅先生 ※1, 2限目	12	火	方略7A(体験学習) P1	12	木			
13	金		13	日		13	水	方略7A(体験学習) P2	13	金			
14	土	方略1 ※1, 2限目	14	月		14	木	方略7A(体験学習) P3	14	土	方略7C 発表会 ※1, 2限目		
15	日		15	火		15	金		15	日			
16	月		16	水		16	土		16	月	海の日		
17	火		17	木		17	日		17	火			
18	水		18	金		18	月	方略7A(体験学習) P1	18	水			
19	木		19	土	方略4 石原先生 ※1, 2限目	19	火	方略7A(体験学習) P2	19	木			
20	金		20	日		20	水	方略7A(体験学習) P3	20	金			
21	土	方略2A ※1, 2限目	21	月	方略5 P1	21	木		21	土			
22	日		22	火	方略5 P2	22	金		22	日			
23	月		23	水	方略5 P3	23	土		23	月			
24	火		24	木		24	日		24	火			
25	水		25	金		25	月	方略7A(体験学習) P1	25	水	前期定期試験		
26	木		26	土	方略6 ※1, 2限目	26	火	方略7A(体験学習) P2					
27	金		27	日		27	水	方略7A(体験学習) P3					
28	土	方略2B ※1, 2限目	28	月		28	木					全体説明:34202教室 ※月～水は 下記の部屋で全体説明	
29	日	昭和の日	29	火		29	金					SGD:P1 プレナリーセッション1	
30	月		30	水		30	土					SGD:P2 プレナリーセッション室2	
			31	木								SGD:P2 研修室2	

薬学入門前期 方略 (平成24年度)									
方略	到達目標	日	細目	学習内容	場所	人的資源	時間(分)	備考	
1	【SGDについて】 SGDの概略ならびに意義を認識する。 【今心にあること】 希望、期待、不安を認識する。	4月14日(土) 1-2時限	1-1	講義	1. 薬学入門について(約15分) 2. SGDについて 3. KJ法について	34202	井上・田淵	40	資料配付・作業説明
			1-2	SGD	「今心にあること(希望、期待、不安)」を抽出(KJ法)	P1: プレナリーセッション室1	担任	15	資料配布:課題(1) 「今心にあること」をタックシールに書き出す
			1-3	SGD	「今心にあること(希望、期待、不安)」の島とタイトルを作成する(KJ法)	P2: プレナリーセッション室2	担任	40	模造紙に島とタイトルを作成する
			1-4	SGD	今日からできること(今後の行動目標)	P3: 研修室2	担任	30	資料配布:課題(2)
			1-5	発表	発表(各5分)・総合討議(各15分)		担任	50	
2	【薬とその適正使用】 1. 「薬とは何か」を討議し、概説できる。 2. 種々の剤形とその使い方について討議し、概説できる。 3. 一般用医薬品と医療用医薬品の違いを討議し、概説できる。	4月21日(土) 1-2時限	2A-1	講義	「人にやさしい薬・良い薬(薬の種類や分類)」について(KJ法)	34202	田淵	10	作業説明
			2A-2	SGD	「人にやさしい薬・良い薬(薬の種類や分類)」について抽出(KJ法)	P1: プレナリーセッション室1	担任	15	意見をタックシールに書き出す
			2A-3	SGD	「人にやさしい薬・良い薬(薬の種類や分類)」の島とタイトルを作成する(KJ法)	P2: プレナリーセッション室2	担任	40	模造紙に島とタイトルを作成する
			2A-4	発表	発表(各5分)・総合討議(各15分)	P3: 研修室2	担任	50	発表:模造紙
			2A-5	調査SGD	疑問点についての調査とまとめ	SGD室 図書館	担任	60	教科書を利用して調査
2	【薬剤師の活動分野】 1. 薬剤師の活動分野について概説できる。 2. 自分の将来の進路とその仕事内容について討議する。	4月28日(土) 1-2時限	2B-1	講義	「薬剤師の仕事の種類(卒後の進路と仕事内容)」について	34202	井上	10	作業説明
			2B-2	SGD	「薬剤師の仕事の種類(卒後の進路と仕事内容)」について抽出(ブレインストーミング)	P1: プレナリーセッション室1	担任	15	カードに意見を書いてグループ内で発表
			2B-3	SGD	「薬剤師の仕事の種類」についてマインドマップの作成	P2: プレナリーセッション室2	担任	40	模造紙にマップを作成 教科書参照可
			2B-4	発表	発表(各5分)・総合討議(各15分)	P3: 研修室2	担任	50	発表:模造紙
			2B-5	調査SGD	疑問点についての調査とまとめ	SGD室 図書館	担任	60	教科書を利用して調査

3	【ヒューマニズム・コミュニケーション】 行動変容のための役立ち感と幸せについて気づきの学習をする。	5月12日(土) 1-2時限	3	講義	2 グループワーク (お友達のを借りて問題解決)	研修室	菅 (担任)	180		
4	【マナー・コミュニケーション・薬剤師について】 薬学生としての心得や理想の薬剤師について学ぶ。	5月19日(土) 1-2時限	4	講義	1. 基本的なマナー・コミュニケーション 2. 薬剤師のやり甲斐	研修室	石原 (担任)	180	レポート提出	
5	【薬剤師の活動分野】 1. 病院ならびに保険調剤薬局における薬剤師の役割について調べて討議し、医薬分業を概説できる。 2. 薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。 3. 医薬品の適正使用における薬剤師の役割について討議し、概説できる。 【事前学習】 1. 見学施設への質問内容について調べ討議する。	5月21日～ 5月23日 ※詳細は 日程表参照	5-1	講義	「病院・保険調剤薬局の薬剤師の仕事 (仕事内容と係り合い)」 について	34202	井上	10	作業説明	
			5-2	SGD	「病院・保険調剤薬局の薬剤師の仕事 (仕事内容と係り合い)」 について抽出(ブレインストーミング)	P1: プレナリーセッション室1	担任	15	カードに意見を書いてグループ内で発表	
			5-3	SGD	「病院・保険調剤薬局の薬剤師の仕事」についてイメージマップの作成	P2: プレナリーセッション室2	担任	40	模造紙にマップを作成 教科書参照可	
			5-4	発表	発表(各5分)・総合討議(各15分)	P3: 研修室2	担任	50	発表:模造紙	
			5-5	調査 SGD	疑問点についての調査とまとめ	SGD室 図書館	担任	60	教科書を利用して調査	
			5-6	SGD	見学施設への質問内容をリストアップ	SGD室	担任	20	ホワイトボードに意見を書く USBメモリー持参 自己紹介票の雛形配付	
6	【事前学習】 1. 見学施設におけるマナーならびに注意点を討議する。 2. 見学施設への事前連絡の仕方ならびに質問内容について討議する。	5月26日(土) 1-2時限	自己学習		調査課題:見学施設への質問内容や専門用語について					
			6-1	講義	訪問時の注意点や事前連絡の仕方について	34202	井上	10	作業説明	
			6-2	SGD	訪問時の注意点や事前連絡の仕方について討議	P1: プレナリーセッション室1 P2: プレナリーセッション室2 P3: 研修室2	担任	30	ホワイトボードにまとめる	
			6-3	発表	発表(3分)・討議(5分)			60	発表:ホワイトボード	
			6-4	DVD	発表準備(注意事項や質問内容など)	34202	岡村	50		
			6-5	SGD	訪問時の注意点や事前連絡の仕方や見学施設への質問内容を再討議	P1: プレナリーセッション室1 P2: プレナリーセッション室2 P3: 研修室2	担任	30	真向票の雛形配付 自己紹介票提出 USBメモリー持参	
		5月28日～ 6月1日	質問票提出		質問票を担任に提出 (5/30まで)	※担任は質問票・自己紹介票を点検後 6/4までに施設へFAX				
			事前連絡		見学施設(指導薬剤師)へ連絡し、事前に訪問時間等を調整					
			自己学習		質問内容や専門用語について充分学習しておく					
7	【早期体験学習】 1. 病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。 2. 保険薬局における薬剤師の業務を見聞し、その重要性について意見をまとめ、発表する。	6月11日～ 7月4日 ※詳細は 日程表参照	7A	見学	体験学習	病院	指導 薬剤師	60～ 240		
						薬局		60～ 240		
		自己学習		討議・まとめ・発表準備						
		7月9日～ 7月11日	7B	SGD	発表準備 後期実習施設選択	※1	担任	180	ノートPC 施設選択票の配付・回収	
7月14日(土) 1-2時限	7C	発表	発表・討議(各5分)	※1	担任	180	クラス別公開発表会 (施設単位)			
※1: P1クラス:34203プレナリーセッション室 P2クラス:34218プレナリーセッション室 P3クラス:34216研修室2										

大学教育センター